

近畿いっせい宣伝「第4波」封じ訴え

総選挙勝利へ今年最高の取り組みに 来たる総選挙での日本共産党躍進へ近畿いっせい宣伝が9日行われ、430カ所で1696人、287議員が近畿民報など1万8,916枚を配布、いずれも今年最高の取り組みになりました。衆院比例・選挙区候補が先頭に立ち、「コロナの第4波の封じ込めへあらゆる対策を」と訴えました。

宮本岳志前衆院議員（比例・大阪5区重複）は9日夕、西淀川区・姫島駅前で宣伝（写真）。志位和夫委員長の菅首相あて提案や、日本共産党大阪府議会議員団の吉村大阪府知事あて申し入れの内容も紹介しながら、「第4波封じには何が必要か」について訴えました。また、生活相談窓口として北山良三元市議の電話番号を紹介しながら「お困りのときは共産党へ」と呼びかけました。

西田さえ子比例予定候補は大阪・生野区の地下鉄小路駅前、「野党連合政権で新しい政治を。国民の苦難軽減を立党の精神とする日本共産党を大きくしてください」と訴え。こむら潤予定候補は尼崎市センタープール前で訴えました。



兵庫

近畿から女性衆院議員を

日本で女性が参政権を行使した日から75年目の10日、党兵庫女性後援会は、神戸市元町の大丸前で女性宣伝が行い、比例代表予定候補のこむら潤さん、たけやま彩子さんが参加。各弁士は総選挙で、綱領にジェンダー平等を掲げる党の躍進を訴えました。（写真右から、たけやま、こむら潤予定候補）



兵庫初登場のたけやまさんは、京都・長岡京市議として初めて出産を経験、住民の運動で学童保育所を実現したなどの自己紹介に度々拍手が起きました。所得上位30人の所得が24兆円に倍加したことを挙げ、「大金持ちが収入に応じた税金を納めてくれたら、コロナ禍でも安心して休業できる補償の財源ができる」として政治を変えようと訴え。こむらさんは、高校の美術の講師を二年ごとに退職・就職を繰り返してきたことを紹介しながらジェンダー平等の大切さを強調。尼崎市で22組の同性カップルが誕生していることを挙げ、声を上げれば政治は変わると訴えました。

宣伝では、庄本悦子県議、朝倉悦子、今井正子両神戸市議、女性後援会、新婦人内後援会の人たちが「比例は日本共産党」、「近畿から女性衆院議員を」と口々に訴えました。

21近畿ブロック事務所ニュース

Tel06(6975)9111 Fax06(6975)9115

【府県・地区・地方議員御中・部内資料】

No. 21(2021.4.12)